

天草コレジヨにおける活版印刷再現の試み

メンバー



指導教師 城本 幸憲

はじめに、本研究の取り組みは、平成19年度から西村洋信教諭（当時）によって立ち上げられ、その後、平成24年度から金属活字製作班（指導者：西村）、印刷機製作班（指導者：城本）に分かれ、活版印刷再現に取り組んでいる。

今年度（平成26年度）は、印刷機の研究を主たるテーマとし、活版印刷による地域貢献や、長期に渡る本校の研究や取り組みの成果を広くPRすることを視野に入れて取り組んでいる。

1 活動の目的

- (1) 活版印刷を通して、当時の技術や文化を知る。
- (2) 郷土天草の歴史について学ぶ。
- (3) 活版印刷を通して地域貢献を図る。

2 金属活字印刷技術の発祥

キリシタンの里天草には、安土桃山時代(1591年から97年までの間)、「天草コレジヨ」(大神学校(現河浦町))が置かれ、イソップ物語をはじめとする天草本と言われる多くの書物が活版印刷により刊行された。ここでは、キリスト教宣教師育成のための教育が行われていた。

そのため、天草は日本における金属活字印刷発祥の地とも言われている。

3 ゲーテンベルク印刷機

当時、使用された印刷機は「ゲーテンベルク印刷機」といわれるものである。

ルネサンスの三大改良(火薬・羅針盤・活版印刷)の一つである活版印刷は、ドイツのゲーテンベルク氏によって手がけられ、製紙法の普及とともに新しい知識や思想を一挙に広めることとなった。

写真は、天正遣欧使節がポルトガルから持ち帰ったものである(写真1(複製))。インクを塗布した活字に紙を乗せ、プレスをかけることで印刷ができる。



写真1 ゲーテンベルク印刷機

4 活動の内容

(1)「コレジヨ館」見学



ゲーテンベルク印刷機の見学、細部にわたる寸法の測定を行った。

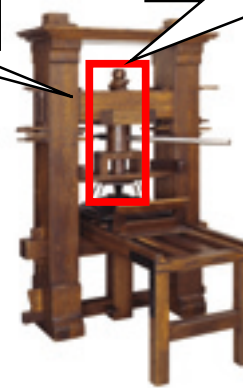
(2)「ゲーテンベルク印刷機」の特徴を検証する。

梁の大きさ

H=200mm

スピンドルの大きさ

ピッチ=65mm



(3) 昨年度製作モデルとの比較検証を行い、改良モデルの製作を行う。

- i) ねじピッチを大きくする。
- ii) プレスをかけると、天板がたわんでいたのので、天板の補強を行う。
- iii) 柱の補強を行う。

(4) 活版印刷を通して、地域貢献を図る。

案1) ラベル作り

◎天草市のオリーブ事業と提携し、天草産オリーブオイルのラベルや商品説明用のシートを作成する。

案2) 試作・体験ブースの設置

◎市内の観光案内所等に、印刷機の設置を依頼し、記念スタンプのように、活版印刷にて旅の証を印字体験してもらう。

案3) メッセージカードの作成

◎市内の観光案内所等に、作成したメッセージカードを置かせてもらい、旅の記念として持ち帰ってもらう。

【結果】

天草エアライン（株）との連携が決定！！

5 印刷

(1) 組版

「welcome to amaxa」

というシンプルな文言に決定し、名刺サイズの上部に印刷して、空欄をメッセージ記入欄として活用してもらう、メッセージカードの製作を行った。

また、白地に花を添える形で、ワンポイントの絵柄や様々な彩りを入れ、世界に一つしかない、メッセージカードが完成した。



(2) プレス



印刷結果

湿潤させ活字に馴染むようにした用紙を、インクを塗布した版の上に数枚載せる。プレスに加減が難しく、何度も挑戦した。

6 活版印刷を通した取り組み

(1) メッセージカードの作成

天草市が勧める「天草島民総おもてなし運動」の一環として、天草へ来られる方々へ旅の思い出の品物として作成した。地元企業である天草エアライン株式会社の協力を得て、飛行機を利用されるお客様を対象に、機内で配布されている。

(熊日新聞：10月 7日 (火) 掲載)

(KKT : 10月18日 (土) 16:00～)

番組名「現場発」：天草エアライン特集の中で本校の取り組みを紹介された)

(天草エアライン機内誌掲載 11月号)

(2) 印刷博物館（東京）学芸員来校

本研究の取り組みが学術的に非常に貴重な取り組みであることが知られ、印刷博物館学芸員2名が来校され取材を受けた。

(熊日新聞：9月28日 (日) 掲載)

本校の取り組みを当館の広報誌に掲載されることが決まった。(現在、原稿確認中) この広報誌は年に4回発行であり、全世界に3万部配布されているとのことである。(12月19日 (金) 発刊予定)

また、2015年4月から開催される、博物館のメインイベント（ヴァチカン展）への出展も計画されている。

(3) 天草支援学校との連携した取り組み

メッセージカードの作成にあたり、紙の製作も手作りにすることで、天草で作られる価値を高められるのではないかと意見をいただき、天草支援学校の紙工班へ協力をお願いした。本校で、紙漉枠を製作し、現在、試作中である。

(4) 国語科との連携

3年で使用する教科書「新編現代文改訂版（大修館書店）」の教材「脳を生かす本」で一冊の本を作る大変さを学習している。その中で「ももこのいきもの図鑑」でイソップ物語について触れる機会があり、その関連学習として、地元天草の文学遺産ともいえる天草本「伊曾保物語」についての授業を行なった。その際、本校の活版印刷の取組を紹介していただいた。製作した機材や、印刷物も補助教材として紹介していただいた。教科書や印刷物の大切さを知るきっかけとなり、また、卒業後は天草を離れる生徒がほとんどであり、故郷の素晴らしさを再発見するよい機会となった。